



環境支援士

発行日 2023年3月31日

発行責任者:滋賀大学「環境学習支援士」会

理事長 橋田卓也

第30号

編集責任者 前田雅彦

URL: <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~shienshikai425/>

Email: shienshikai@yahoo.co.jp

コロナ禍のもとで「未来のびわ湖人育成の学習支援」活動とこれから 文責 橋田卓也

「未来のびわ湖人育成の学習支援」事業は、2011年からスタートし、びわ湖の環境を学び、びわ湖を愛し、次の世代へ残していくためのびわ湖人へ成長していく学習支援です。本来の自然なびわ湖の姿を思い描き児童が10年後のびわ湖のためにどんなことができるのか、自ら考え行動できるように県内の小学校5年生を対象に、学習支援してきました。2022年度の「うみのこ」乗船前・後の体験学習は、県内19校21回で昨年の実績の110%と回復した。(2022年度はコロナ禍以前の2019年以前と比べると90%の回復)ただし、9月以降出前授業の申請が減りました。23年度第I期フローティングスクール指導計画会議で、2022年の9月の以降の出前講座の申請が減った原因に指導主事にお尋ねしたところ22年度はコロナ禍3年目で1泊2日のフローティングスクールから1日(半日体験学習)に変わったために空いた時間を小学校への出前授業にシフトしたことにもよるのかも知れませと話された。また、2023年度は「うみのこ」体験学習は新型コロナの5類化に伴い1泊2日の航海に戻る方向で検討を進めていることが分かりました。「うみのこ」が1泊2日になった場合に備えて、私たちもそれに対応した出前講座が増える等の対応や出前講座・WSのグループ討議化を検討していく必要があります。今後の課題を検討していくことが求められています。

- ① 2023年度は支援士会の講師の拡大を図る。(講師の高齢化が進んでおり) 出前授業申請の受け入れも講師状況にて応じて対応を図る。
- ② 出前授業後のWSのまとめについて、担任の先生と協力して簡略化していく。
- ③ With コロナ対応としてWSのグループ討議資料の見直し

能登川北小学校近くの水路の水質・生物調査

文責：橋田卓也

滋賀県教育委員会生涯学習課滋賀学校支援センターの片岡様から能登川北小学校(5年生10名)「流れる水のはたらき、水生生物の観察」の申請があり、小学校の担任江畑先生と10月11日16:00~学校で打合せをして実施日を10月20日と決めました。10月20日5~6時間目に学校の近く水田や畑の用水路(幅1.5m水の深さ15cm)で実施しました。水路は、コカナダモが繁茂し水質はPH6・COD値は4で一般的な河川の水質でした。



水質調査・PH/COD測定



用水路で生物採取

生物はマルタニシ、カワニナ、ザリガニ、ヌマエビ、スジエビ、タイコウチ、ヤゴ、ヤンマ（ギンヤンマ）ドンコ、カワムツといろいろな生物が採取できました。特に、絶滅危惧種のタイコウチ 5 匹とれたのに驚きました。小さな用水路ですが色々な生物の採取でき、豊かな自然が残されていました。

令和 4 年度大津市生涯学習推進フォーラムに参加して 文責 竹田 龍弘

日時：令和 4 年 10 月 29 日（土曜） 13：00～16：25 会場：和邇文化センターホール

第一部 講演「地球温暖化：答えは緑」

講師：ブライアン・ウィリアムズさん（風景画家）

第二部 団体発表 「つなごう！学びのネットワーク」

- *大津公民館利用者団体連絡協議会「成長とサポート、市民力の向上」
- *大津市生涯学習センターボランティア連絡協議会（チャオ）
- *一般財団法人言語交流研究所ヒップファミリークラブ「オンライン活動」
- *ブックステーション（どんぐり）「コロナ禍における活動の工夫」

上記のように講演と各団体の発表の二部構成で研修会が行われました。前半はペルー生まれで日本在住 50 年というブライアン・ウィリアムズ（風景画家）氏の活動報告でした。日本の茅葺き家屋を曲面絵画（高所からの目線で描く）という大変な作業を詳しく説明されました。たくさんのお金をつぎ込み高所作業車などを使ってデッサンをされることもあるようです。

琵琶湖博物館のエントランスホールにはブライアン・ウィリアムズさんの横幅 570 cm×縦幅 160 cmの曲面油彩画「琵琶湖四季彩」が設置されています。



又、ブライアン・ウィリアムズさんは画家活動だけではなく、自然破壊（ダム建設、ゴルフ場の開発）により日本の原風景が残り少なくなっている事に寂しさや危機感を覚え、びわ湖の自然、生き物、水質、治水などに問題意識を持ち活動されているとの事でした。特にヨシ群落の再生、維持には大きく関わられているようです。

11 月 2 日栗東市大宝東小学校の出前講座

文責 前田 雅彦

11 月 2 日栗東市大宝東小学校の出前講座を 1 組 前田、2 組 橋田、階元実習で実施しました。大宝東小学校は大宝小学校と栗東駅を挟んで、学区が分かれており、アルプラザ、芸術文化会館等の商業、文化施設がありました。居住地は、高層マンションが立ち並び親は京阪神への通勤の方が多く住む地域でした。子供た

ちは、都会っ子で授業は活発で積極的に発言・発表する雰囲気がありました。特に、WS での課題を2つ選んで一人一人の発表は積極的に発言していました。

先生方のアンケートを見ると全体の評価で内容的に普通で分かりやすく、昔と今の様子などを写真や資料もたくさんあってイメージしやすい内容と評価されました。WS は課題 10 に分類して紹介されたいので子供たちがペアで話し合ったりできる時間が取ればよりよかったと答えられていました。(With コロナ後の WS の課題です) 他のクラスでは、感想や WS で選んだ項目・理由について、発表後に討論に発展し、びわ湖の固有種がなぜ減ったのか、それは水のきれいさ(琵琶湖の水が直接飲めた)水質にあるのか、それとも魚のエサに当たるプランクトンの量によるのかが争点になりました。フローティングスクールでの課題として臨んで欲しいとまとめました。後日 先生から「子どもたちは新たな課題をもってフローティングスクールに行けそうです」とコメントを頂きました。

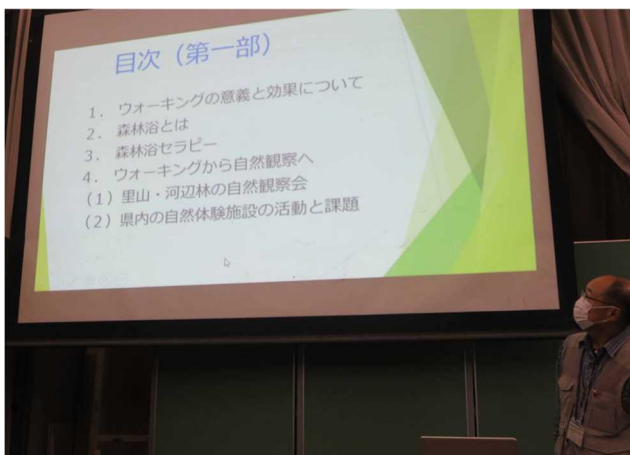


レイカディア 44 期生びわこ環境学科

文責：橋田卓也

実施日：令和 4 年 11 月 10 日（木）10：00～15：00 場所：栗東自然観察の森 参加者 レイカディア第 44 期生びわこ環境学科 1 年 23 名 サポーター 2 名 事務局 1 名 計 26 名

(1) 10：00～12：00 研修室「ウォーキングから自然観察へ」①ウォーキング意義と効果 ②日本の森林の役割など
(2) 13：00～15：00 栗東前観察の森「自然観察会、ふりかえり」A コース：ドングリ観察、腐葉土の役割、森の自然を五感で自然で感じる。B コース：生態見本園、竹林コース、シダ園巡回、途中で健脚コースはお月見山方面へ。自然観察の森の案内図に木の名明らかにして各人がラベル貼り付けました。今回の取組の問題点を明らかにし、今後の栗東自然観察の森での自然観察会を実施していきたい。



2022年度もコロナウイルスの影響が続き3年目入りしました、これまで同様フローティングスクールは1日に短縮され、滋賀県に於いても予断を許さない状況が続いています。そのような中、小学校では、感染対策を十分に行い、児童、先生方が苦勞しながら今回、かなり少なくなったものの「うみのこ」出前学習を行うことが出来ました。

今年度はフローティングスクールの先生方も1日学習で時間があり積極的に出前授業を各学校で行い、「環境学習支援士」会への依頼が少なかった様に思います。

来年度以降は、コロナウイルスも落ち着くと見られ従来通り2日のフローティングスクールになり、「環境学習支援士会」への出前学習の依頼が増えることを期待します。

◇草津市立玉川小学校(11月28日実施)

児童の多くが、びわ湖周辺の美しい景色を再認識し、その美しい景色を守る事が固有種の保護や、素晴らしい食文化を継承していく事に繋がるとの認識を持ってくれました。

又、積極的に学習に参加して、質問など適時行い、時間が足りないほどでした。今後更にこのような活動を通じて、多くの学校でびわ湖に興味を持つ児童が増えることを期待します。 以上

老蘇小学校の子どもたちから住民文化が学観を醸成することを学んだ 文責 三田村 緒佐武

実施日12月6日「うみのこ」乗船の事前学習として、老蘇小学校で出前講座を行った。私は、出前授業の前に、校区の文化、とくに琵琶湖とのかかわりの文化を少し勉強する。そして、講座で、子どもがいかに地域で生きてきたのかを理解して、子どもの自然観と環境観を診ることにしている。

近江八幡市安土町老蘇地区は、旧中山道の宿場町であろうか。主要国道（国道8号線、新中山道と言う者が多い）に並行するが、東京大学（日本最古の官制大学）の設立より古い1875年（明治8年）に創立され、寺子屋的自主学习を受け継ぐ老蘇小学校の校区の子どもたちは、心豊かに哲理で生きる日本文化をにおわせる。今、教育界で叫ぶ学習者が能動的に学ぶ指導方法「アクティブラーニング」による学習は、老蘇小学校で脈々と受け継がれてきたようだ。急速に商経済発展する無機質な日本にも、自然の多様性から人（己）の生き方を見つけようとする子どもの住民文化（多様な個性を尊重する里地文化）が根付いていると安堵した。私は、「自然を修復して復元して、その自然自らが再生した自然を保全する人の環境観の原点は、生活の智慧を醸成してきた住民文化にある。琵琶湖の再生と保全は、琵琶湖流域住民の文化力である」を再確信した。

出前講座は、子どもから学んだ私の生涯学習の数時間でもあった。「教科書を学ばず（教科書をそのまま学ばず）」、「教科書で学ぶ（教科書を参考にして学ぶ）」子どもたちが、老蘇小学校で育つことを願って学校を去った。

佐瀬さん弔問について

文責 橋田卓也

11月22日佐瀬さんの奥様から主人佐瀬章男が病氣入院中、去る、11月18日死去しました。すでに家族葬を行いましたとの報を受け支援士会理事に連絡するとともに全会員へ連絡しました。理事会でお世話になったものとして12月3日に弔問いたしました。佐瀬さんは、支援士会の結成の発起人として副理事長、事務局長、合同部会長、会計を兼務され支援士会の中心的役割をされてきました。残念でなりません、ご冥福を心からお祈りいたします。（後日、支援士会の資料引継



ぎに伺ったところ、奥様から、主人は88歳になるまで支援士会活動を続ける。88歳以降はなすがままに生きて、100歳まで生きたいと言われたいたそうです。）

大戸川通院損害保険申請について

文責 橋田卓也

9月10日「自然環境塾一川の学校—大戸川学習」を開催しました。天気は晴れで楽しい1日をすごしました。大戸川参加者の小学生の児童が川の石の下の生物を採取するため石を持ち上げたところ指切傷を殺傷しました。すぐさま、保護者と児童に病院へ行くようにしていただきました。これまで10年近く川での水質・生物調査を実施してきましたが初めての出来事です。すぐに大津市社協担当者に連絡を取り、損保ジャパン窓口から申請書一式頂き申請書を提出しました。申請者から委任状を頂き事務代行を行い前田さんの立会いのもと保護者に保険金を支払いました。保護者からは大変感謝され、次回も大戸川の川の学校へ参加したいと言われました。今後は、石の下の採集は手袋着用を徹底していきます。（今回は保険金の請求代行を実施して、今後の保険金の請求方法を確認・確立しました）

温暖化防止部会の活動内容（2022年9月～2023年3月）

文責 橋本繁

毎月の定例会では、地球温暖化に関連したテーマを取り上げて、各担当者がそのテーマについての話題提供を行い、会員との自由闊達な議論を行い、問題がどこに有るのか、解決策はどうすれば良いのかの議論を行いました。このことを通じて、地球温暖化の今日的課題を把握すると同時に、議論を通じて部員の老化防止につながりたいと考えています。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大と会員の健康問題から、会合が思うように出来ませんでした。

9月上旬に、会員の齋藤氏が逝去されました。滋賀大学農園での近隣の住民参加による野菜栽培体験学習、NPO気候ネットワーク支援による「あゆっこエコチャレンジ」の作成と小学校での実施（1校のみ）、岩谷産業での水素製造の現場確認、水月湖での年縞確認など色々な事を部会員と共に企画・実施されました。

【適応策・その他】

○「長良川流域が直面する温暖化にどう適応するか？」（2022年11月）

環境研究総合推進費シンポジウム（Zoom参加）についての内容紹介とディスカッションを行いました。温暖化で、鮎の分布が変化していますが、地域の人達との共同で適応策を検討して行こうとの事です。

○「サイエンスカフェ参加」（2023年1月）

長浜バイオ大学蔡学長による「サイエンスイノベーションによって進化した植物科学が地球を救う」という内容での講演。人工知能、ゲノム編集など大きく進展していることを把握。食糧問題については、まだまだという印象を持ちました。

○「大津プラスチックごみ削減勉強会の歩み」「関西環境管理技術センターの事例紹介」（2023年2月）

プラスチックごみをどう削減していくかについての各地域都市の市民活動の内容紹介があり、それを基に議論を行いました。余呉湖の水質についての検討例の紹介と議論を行いました。

合同部会の活動内容（2022年9月～3月）

2023年3月15日

文責 橋田卓也

合同部会（自然環境部会、琵琶湖部会、学校地域部会）の下半期の活動は、「未来のびわ湖人育成の学習支援」出前講座を学校からの申請を受けて、其々の会員が担当して実施しました。下期は7校9回実施しました。これにより年間を通して前年度比110%コロナ前の90%へ回復しました。また、滋賀県教育委員会生涯学習課滋賀学校支援センターから依頼での能登川北小学校の水質・生物調査1名参加、滋賀県健康医療福祉部子ども・青少年局成果発表会参加1名参加、大津市教育委員会生涯学習課令和4年度大津市生涯学習推進フォーラムに4名参加

しました。

	学校名	実施日	組数	児童数	講師名	講師数
⑬	彦根市亀山小	9/2	1クラス	22	三田村	1
⑭	野洲市北野小	9/12	3クラス	108	下山、橋田、佐瀬	3
⑮	彦根市佐和山小	9/16	3クラス	97	下山、橋田、佐瀬	3
⑯	大津市田上小	9/14	3クラス	71	佐瀬・前田・三好・階元・東野・ 竹田・橋田・成子	8
⑰	湖南市三戸小乗船後	10/17	2クラス	53	橋田	1
⑱	能登川市北小	10/20	1クラス	10	橋田	1
⑲	栗東市大宝東小	11/2	2クラス	68	橋田、前田、(実修階元)	2
⑳	草津市立玉川小	11/28	3クラス	87	階元 下山 橋田	3
㉑	近江八幡老蘇小	12/6	1クラス	27	三田村	1
下期計	7校(9回)		19クラス	563名		23名(実習1名)
年間計	19校(21回)		50クラス	1398名		53名(実習3名)

2023年度の総会・・・通常開催です。たくさんの会員のご参加をお待ちしています。

(別紙の案内を参照の上、返信ハガキを4月25日までに投函下さい)

2023年度の総会

日時 2023年5月13日(土)11時30分～12時30分 総会

会場 滋賀大学大津サテライトプラザ(JR大津駅前 日生ビル4階)

出欠の可否を同封したハガキに記載の上返送ください。(当日参加者は会費を受付ます)

編集後記

新型コロナウイルス感染が、収まると思われましたが、7月にはオミクロン感染が拡大し滋賀県独自の地域対応レベル1～2レベルが継続した中での活動となりました。

「うみのこ」体験学習は、コロナ禍で昨年同様1泊2日ではなく1日体験学習となった。コロナ禍で厳しい状況の中、環境学習支援活動や環境学習の取組に全力を挙げてきました。2008年度の会の結成以来活動の中心的役割果たされてきた佐瀬さん、温暖化部会の斎藤さん死去されました。支援士会も他の団体と同様に会員の高齢化が進んできています。活動の継続が難しくなることも予測されます。より一層の会員が活動に参加するよう呼びかけるとともに、会員の拡大を目指します。明るいお知らせとしては、昨年引き続き新しい会員を迎えることができました。私たちは、感染防止のための3蜜対策をしっかりと守り、学校や地域にあって環境問題の解決要求にむけ、皆で着実に取組を進めていきましょう。新型コロナウイルス感染症は「2類相当」の扱いになっていましたが、政府は、5月8日からこの位置づけを季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げることを発表しました。小学校では原則としてマスクなしとなり「うみのこ」も1泊2日の運行になりそうですが、まだまだ安心して行動できるとは予測できません。会員各位と共に元気で楽しく、未来志向の活動ができるよう願っています。